

高等学校では令和4年度新入生から、新学習指導要領が適用されるため、現行の大学入試形態は今回が最後となる。また、群馬県では今年度より、高校入試のシステムが変更された。そこで、今回の共通テストについては進路主事の川田先生に、高校入試については一場先生に、それぞれ話を伺った。

入試形態に変化の波到来

受検生に影響広がる



群馬県 高校入試形態変更

「家庭学習期間を有効に」

高崎高校では2月21日と22日に「群馬県立高等学校入学者選抜試験」が行なわれる。群馬県立高等学校入学者選抜試験は、前年度まで前期選抜と後期選抜に分けて実施していたが、今年度から一度に実施する形態に変更される。今回の変更の理由について、群馬県公立高校の入学者選抜制度検討委員会は、県の教育

主な変更点	旧制度	新制度
実施要項	前期:学力検査(3教科)、総合問題や面接等 後期:学力検査(5教科)	1日目:学力検査(5教科) 2日目:面接等
選抜方法	前期:調査書、面接等を重視 後期:学力検査重視	特色型:学校内外での活躍や意欲を重視 総合型:学力検査を重視

*出典:群馬県教育委員会の「群馬県公立高校入学者選抜制度の改善方針」

群馬県公立高校入学試験における変更点

科目	満点	全国平均点
国語	200	116.5
数学I	100	34.63
数学II-A	100	51.38
数学II-B	100	35.54
英語リーディング	100	57.74
英語リスニング	100	51.54
英語リスニング	100	67.24
物理基礎	50	28.72
化学基礎	50	27.31
生物基礎	50	31.57
地学基礎	50	35.66
物理	100	62.97
化学	100	54.77
生物	100	54.83
地学	100	56.67
世界史A	100	42.17
世界史B	100	60.28
日本史A	100	47.04
日本史B	100	56.27
地理A	100	55.78
地理B	100	65.74
現代社会	100	55.94
論理	100	56.44
政治・経済	100	44.35
論理・政治・経済	100	61.26
5教科7科目文系	300	536
5教科7科目理系	300	556
5教科8科目	800	494

令和6年度共通テスト科目別全国平均点

共通テスト全国平均安定 高平均 全国の1.2倍

1月13日から14日にかけて令和6年度大学入学共通テストが行なわれた。1日目には地理歴史・公民、国語、外国語の文系科目が、2日目には理科、数学の理系科目の試験が実施された。そこで、進路主事の川田智広先生に共通テストに関して話を聞いた。

今年度の共通テストについて、「今年度は共通テスト4年目となる。文系・理系ともに平均点が上昇した。過去3年間は科目によって難易度の差が大きかったが、今年度は50から60点の間に落ち着いた科目が多い」と語った。

委員会のホームページで次のように公表している。「前期選抜の募集定員を、定員の10%から50%の間で定めていることから、多数の受検者が不合格を経験することになり、

心理的な負担が大きくなってきている。また、不合格となった受検者の多くが、後期選抜で同じ学校・学科を受検し、合格している」、「受検期間が約2か月間の長期に及ぶため、中学校・高校双方において、3学期の授業時間を十分に確保できない。また、高校においては、採点を含む選抜業務の日程が過密である」などだ。入試体制の変更について、高崎高校の入学選抜担当である一場先生に話を伺った。「制度が変更されて初めての入試となるが、運営側としては試験が公正なものになるように、万全の体制で臨みたい」と現在の意気込みを語った。また、「初めての入試体制で中学生も不安だろうが、できる準備をして入試に臨むことに変わりはない。自信を持って頑張ってもらいたい」と中学生に向けてのエールを送った。

また、入試の実施により、高崎は2月21日から2月28日と3月4日に「家庭学習期間」を設けており、在校生は各々の家庭で過ごすことになる。家庭学習期間についても、一場先生に話を伺った。「高崎生には出された課題をしっかりとやり遂げ、更なる学習習慣の定着を目指してほしい。学習をするのももちろんだが、読書などにも取り組み、充実した時間を過ごしてほしい」と口にした。

今回の9日間にわたる家庭学習期間を有効活用できるように、計画を立ててはどうだろうか。

(荒井)

来年度以降で懸念される点については、「新課程になり共通テストで大きな科目の変更がある。一方で、既卒生を対象とした旧課程の問題も用意されるため、今年度と同等の難易度になると思われる。共通テスト型の校外模試で十分な練習も行なうことができるため不安を感じる必要はないだろう」と語った。

(荻野)

高崎生については、「文系理系ともに900点満点で、本校の受験者の得点率の平均は72%であった。科目ごとの平均点は、全国平均を100としたとき、120前後の上昇がみられる」と述べた。

また、「生徒は、第一関門の共通テストでは十分な力を発揮した。私大や国公立二次試験に向けて更に伸びるので、気持ちを切り替えて個別試験対策に励んでほしい」とエールを送った。

近年はグローバル化が進んでおり、日本企業で働く外国人や、海外企業と協力して仕事をする機会も増えている。そういった中で、社会では国際的なコミュニケーション能力が求められる。そして、学校教育にもその波が押し寄せてきている。

小学校では2020年から英語が必修となった。小学校3・4年生では「外国語活動」として、英語を「話す・聞く」ことで言語に慣れることを目標にしている。そして、5・6年生では「教科」として「読む・書く」ことを含めたより本格的な学習をするようになった。この効果は早くも現れており、中学生で英検3級程度の能力を取得している生徒が年々増加している。

外国語を学ぶ意義とは

英語を学ぶ中で単語が可算名詞なのか不可算名詞なのかを迷ったことが一度はあるだろう。単複同名の名詞や意味によって可算・不可算が変わる「room」などの名詞もあるため、余計にややこしくなる。抽象的なものが不可算名詞で、具体的なものが可算名詞だと習うこともあるが、それだけでは簡単に区別できないことも多々ある。これらの見分けがつきにくいのは、日本語に可算名詞や不可算名詞という概念がないからだ。だからこそ、英語を学ぶことで何が「抽象的」で、何が「具体的」なのかを実感できるようにする。

また、外国語を学ぶことでその国の娯楽や文化をありのままに感じることが出来る。海外の文化を日本語で理解しようとする時には、一般に誰かが日本語に訳した歌詞や本を見ることになる。しかし、単語の有無などにより、和訳する過程で原文とは微妙にニュアンスが異なってしまうこともあるだろう。だが、その言語を習得していればどうだろうか。その歌詞や本に書かれた内容を日本語を介さずとなく理解できる。そのため、微妙なニュアンスの差異も原文通りに汲み取ることが出来るだろう。

このように、外国語を学ぶ利点は、コミュニケーション能力を高めることにとどまらない。現在では多くの人が大学受験を見据え、英語の学習に励んでいると思う。時にはモチベーションが上がらないこともあるだろう。そうした時には英語を学ぶ意義が「大学入試に有用である」ということ以外にも多くあることを思い出し、学習に取り組んでみてはいかがだろうか。

(新井寿)

英語を学ぶ中で単語が可算名詞なのか不可算名詞なのかを迷ったことが一度はあるだろう。単複同名の名詞や意味によって可算・不可算が変わる「room」などの名詞もあるため、余計にややこしくなる。抽象的なものが不可算名詞で、具体的なものが可算名詞だと習うこともあるが、それだけでは簡単に区別できないことも多々ある。これらの見分けがつきにくいのは、日本語に可算名詞や不可算名詞という概念がないからだ。だからこそ、英語を学ぶことで何が「抽象的」で、何が「具体的」なのかを実感できるようにする。

また、外国語を学ぶことでその国の娯楽や文化をありのままに感じることが出来る。海外の文化を日本語で理解しようとする時には、一般に誰かが日本語に訳した歌詞や本を見ることになる。しかし、単語の有無などにより、和訳する過程で原文とは微妙にニュアンスが異なってしまうこともあるだろう。だが、その言語を習得していればどうだろうか。その歌詞や本に書かれた内容を日本語を介さずとなく理解できる。そのため、微妙なニュアンスの差異も原文通りに汲み取ることが出来るだろう。

このように、外国語を学ぶ利点は、コミュニケーション能力を高めることにとどまらない。現在では多くの人が大学受験を見据え、英語の学習に励んでいると思う。時にはモチベーションが上がらないこともあるだろう。そうした時には英語を学ぶ意義が「大学入試に有用である」ということ以外にも多くあることを思い出し、学習に取り組んでみてはいかがだろうか。

(新井寿)